

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
「ひびき合い とともに よりよく生きる」	
【知】自ら課題を発見し、考えを深めながらよりよく解決していく子を育てます。	【問題解決力、関心・意欲・態度】
【徳】自分も身近な人も大切に、思いやりのある優しい心をもつ子を育てます。	【人権尊重、あいさつ、思いやり】
【体】体を鍛え、自他の生命や体を大切にすることを育てます。	【生命尊重、自己の体力づくり】
【公】自分と身近な人・もの・ことにかかわり、集団の一員として役に立とうとする子を育てます。	【社会参画、他者への貢献、自尊感情】
【関】自分から様々な人とふれ合い、共に生きていこうとする子を育てます。	【コミュニケーション、共生、他者理解】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
①【問題発見・解決能力】	具体化した資質・能力 「人・もの・こと」との豊かなかかわりを通して問題を発見し、主体的に解決しようとする力 自他を認め合い、進んで協働しようとする力
②【コミュニケーション能力】	

中期取組目標
◎学校教育目標「ひびき合い とともに よりよく生きる」の具現化
(1) 日々の授業を通して、子どもたちの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていこうとする子どもたちを育てます。
(2) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合える温かい学校風土をつくります。
(3) 自身の健康に関心を持ち、進んで運動したり、毎日の食事や睡眠を大切にしたりする力を育てます。
(4) 学校運営協議会を基盤に、保護者・地域と連携しながら、信頼関係に基づいた開かれた学校づくりを進めます。
(5) 組織的な指導体制のもと、全職員が共通理解をもって児童の指導に当たります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①「問題解決的な学習」を研究・推進し、子どもたちの問題発見能力や、学習計画力、解決方法の選択力・決定力を育てる。 ②「GIGAスクール構想」を推進し、効果的にICTを活用する協力的な授業づくりを進め、成果を全体で共有する。
担当	評価委員会

確かな学力に関わる本校の状況													
学力状況調査で実施された3教科では、すべての領域で、全国平均・神奈川県平均を上回っていました。													
国語及び算数において、学習指導要領の観点別に見ると、「知識・技能」は、いずれも全国平均を上回っていました。「思考・判断・表現」では、やや低い結果が見られました。													
また、生活意識調査では、「学校に行くことが楽しい」の項目に対して肯定的に捉えている児童が多かったです。一方、「自己有用感」については、互いに認め合ったり、学級やグループで考えを話し合ったりと、周りとの関わり方を不得意と捉える児童もいることがわかりました。													
そこで、今年度の校内研究のテーマを「自分の考えを進んで相手に伝え、ひびき合う子どもの育成」としました。ICT機器の利用については、全国平均を大幅に上回っており、児童の自信にもつながっていることから、効果的なICT機器の活用も推進しつつ、表現と対話に重点を置いた、「ひびき合うための力」の育成を目指していきます。													
<p>藤が丘小学校 (教科別学習状況調査結果) (平均正答率%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>算数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国</td> <td>67.2</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>神奈川県</td> <td>66</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>藤が丘小学校</td> <td>68</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table>			国語	算数	全国	67.2	62.5	神奈川県	66	63	藤が丘小学校	68	68
	国語	算数											
全国	67.2	62.5											
神奈川県	66	63											
藤が丘小学校	68	68											

今年度の目標	
・児童一人ひとりが自分の考えをしっかりと伝えながら、問題解決の見通しをもって、粘り強く学習を進めていけるようにする。	
・解決の方法の一つとして、児童が効果的にICT機器等を選択・活用できるようにする。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・問題解決学習を主眼に置いた授業改善を全校で推進し、児童が自分でめあてを決めて学びを進める機会を増やし、困難な課題に対しても粘り強く問題状況を解決しようとする力を育む。 ・協動的な学びを推進することで、相手意識をもって自分の考えを表現する機会を増やし、児童が互いに一人ひとりの思いを大切にできる学習場面を意図的に設定するようにする。 ・「表現と対話」の必要感を高め、子どもが「相手」や「目的」を強く意識できるようにする。
下半期	・ICTの効果的な活用場面を実践例として蓄積することで、本校のカリキュラムを日々改善し、本校児童の資質能力の確かな育成につなげていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ベア学年、児童会、学級活動等を通して、「互いのよさを認め合える仲間づくり」を支援し、協働しようとする態度を育てる。 ②道徳科と各教科領域の関連を強め、子ども一人ひとりが「自分ごと」と感じ、価値の自覚がもてる道徳科の実践を行う。 ③「藤が丘小学校いじめ防止基本方針」の共通理解を確実にし、事案発生時に迅速かつ組織的に取り組む。 ④児童アンケートと面談を全校で行い、子どもの豊かな変化についても見逃さない体制をつくる。
担当	人権・子ども支援委員会

豊かな心に関わる本校の状況
①なかよし活動では、高学年が低学年との関わりを通じて、自主的に活動を行うことで、成長につながる部分を見ることができました。児童会活動では、企画運営委員会主導で、あいさつ運動を有志で行いました。
②人権週間では、各クラスで自分も友達も大切に授業を行い、互いの良さを認め合う活動を行っています。
③職員でいじめ対策防止委員会を開催し、いじめ案件に対する共通理解を行い、対応や支援策など組織的に取り組んでいます。
④年に2回のYPアンケートと教育相談を行い、児童の思いを聞く時間を確保しています。昨年度は2回いじめ防止に関するアンケートを行い、未然防止、再発防止の対応に努めています。

今年度の目標	
様々な活動の中で、互いに気持ちよく、落ち着いた生活ができるようにし、様々な立場の人とふれ合い、お互いの気持ちを尊重しながら豊かに関わろうとする態度を育てる。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・児童一人ひとりの自尊感情を育てていくために、日頃の学習活動全般において、人権尊重の精神を基盤にした「学習活動づくり」や、人権が尊重される「人間関係づくり」などを推進していく。 ・藤が丘小学校の児童全員が安心して安全に学校生活を送ることができるように、日々の授業や行事を通して児童間のつながりを強く強いのにしていく。また、職員全員が組織として児童との信頼関係を築いていけるように対話を大切にされた関係作りを行う。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「ロング昼休み」を活用し、体を動かして遊ぶ時間を確保することで、子どもの運動習慣の増進を図る。 ②給食指導をきっかけに、6年間の系統的な食育指導を行い、健康と食事の関係についての関心を育てる。
担当	健康安全環境委員会

健やかな体に関わる本校の状況
①運動するのが好きな児童と苦手な児童とが二極化しており、運動量に大きな差があります。運動量の少ない児童の疲れやすさやけがのしやすさが目立ちます。
②これまで食事のマナーを学ぶ機会が少なく、会食をする場面での課題があります。食への関心は高いものの、なかなか行動に結びつかないことがあります。
③体力向上に向けてサーキットメニューに取り組み、足が速くなった、体が動くようになった等の効果を得られました。
④けがをしたときは患部を水道で洗うことや、腹痛のときは、まずトイレを済ませること等、保健室を利用する前に自分でできる対処法を習慣として身につけていない児童が多く見られました。

今年度の目標	
学校保健委員会や給食指導の中で、自分の日常を振り返りながら、自分の心身の健康に関心をもつ。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・朝学習の時間やロング昼休みを活用し、体力向上に向けて積極的に運動に取り組むように促す。運動量委員会や集会委員会などと連携して、校庭で身体を動かして遊ぶことの楽しさを伝えるとともに、元気に運動をすることで、健やかな体の成長につながっていくことを感じられるようにしていきたい。 ・「ばくばくだより」や、掲示物等による給食指導の中で、食事のマナーを知り、会食にふさわしいふるまいを意識できるようにする。また、食物が体の成長に深く関わっていることを知り、栄養バランスのよい食生活を心がけられるようにする。
下半期	・児童一人ひとりが自身の健康や安全について今よりも関心を持ち、万が一けがや病気になってしまったときにも適切な対処が自分の力で行うことができるよう、養護教諭と担任が連携しながら指導していく。